

## 5. 今月のトピックス 「水稻のニカメイガについて」

### ◆三重県内での被害の様子◆

ニカメイガの幼虫 (図 1) は、水稻の葉鞘や茎の内部を食害します。

分けつ期から出穂期までは、心枯れが発生します。また、出穂期以降には、出すくみ穂や白穂の発生によって、収量に影響を及ぼします (図 2)。

三重県内での発生面積は、近年増加傾向にあります (図 3)。被害程度の小さい圃場がほとんどですが、ごく一部では目立つ被害が発生しています (図 2)。作付時期の多様化や冬期の温暖化は、ニカメイガの発生しやすい環境をつくると考えられており、今後注意が必要です。

終齢幼虫は体長20~23mm



図1 ニカメイガ幼虫  
(農業研究所 鈴木賢氏原図)



図2 ニカメイガによる白穂被害の多発圃場

### ◆生活史◆

三重県では年 2 回発生します (図 4)。

- ①成虫 (越冬世代) : 4 月から 6 月にかけて羽化、水稻に産卵。
- ②幼虫 (第 1 世代) : 葉鞘や茎を食害 (葉鞘の黄変・心枯れ)。

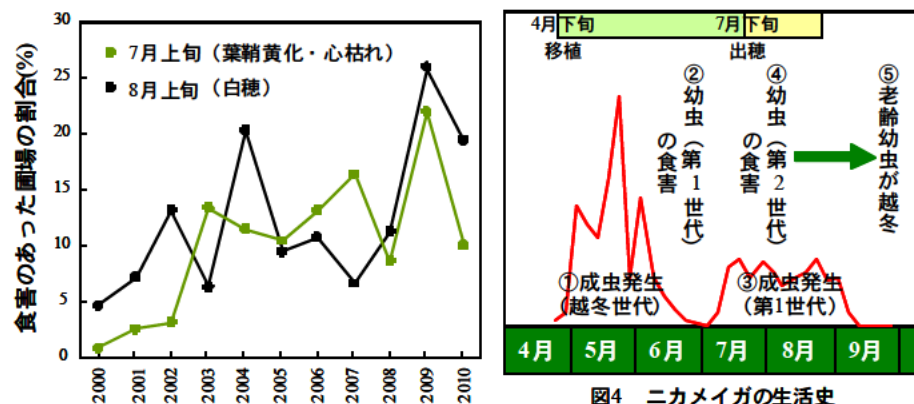


図3 過去10年における、ニカメイガ発生状況の推移 (巡回調査結果)  
図4 ニカメイガの生活史 (赤線: 成虫の発生消長の例・松阪市)

- ③成虫 (第 1 世代) : 7 月以降に羽化、産卵。
- ④幼虫 (第 2 世代) : 茎を食害 (出すくみ穂・白穂)。
- ⑤老齢幼虫 (第 2 世代) : 水稻の刈り株や稲わらの茎内で越冬。

### ◆防除のポイント◆

ほとんどの圃場では薬剤防除の必要がありませんが、毎年被害が目立つ圃場では、防除を行いましょう。

- 1) 毎年発生の多い地域では、長期残効性の箱施用剤を利用して、幼虫 (第 1 世代) の防除を重点的に行いましょう。
- 2) 6 月から 7 月にかけて、心枯れが 1 割以上の株で発生した場合は、成虫 (第 1 世代) の発生時期 (平年 7 月第 6 半旬・松阪市) に合わせて薬剤散布しましょう。
- 3) 冬場の耕起管理によって、越冬源となる稲わらをすき込みましょう。